



節田(せった)※方言名：シッタ・スイタ

鹿児島県指定の無形民俗文化財「節田マンカイ」で知られる節田集落。交互に唄の掛け合いを続ける踊りで、昔は笠利町全域で行われていたようですが現在は節田集落だけに残されています。



節田海岸

節田集落はほぼ南側を海に面し、大きく北側から白間(シロマ)、犬川(インゴ)、赤連(アガレ)、小湊(クニヤト)からなる。

節田海岸はアダンの群生する海浜で、かつて4月にはマーシブ(馬競争)や、アダンの葉(雄花)をバタバタさせる追い込み魚が行なわれた。



アマンヂと阿摩美姑神社

節田集落の北側に位置する大刈山にアマンヂがあり、高岳に次ぐ約180mの標高を有している。その中腹の先端に明治34(1901)年に建立された石碑に「阿摩美姑最初天降地」があり、そこから南に下った集落の丘に阿摩美姑神社がある。天孫降臨伝承とネリヤカナヤ伝承が折衷する島であることが良くわかる。



節田立神

節田集落南側はずれに海に突き出たような高さ約20mの大きな岩が「節田タチガン」と呼ばれる。このタチガンは3つのタチガンからなる。大きい方の岩がウヤタチガン、小さいのがクワタチガン、もっと小さい岩がマアガタチガンと言われる。

ここは夜イザリに行くとケンムンマツチ(怪火)が出没すると伝えられている。



タチガンムイ(立神森)

節田集落南限で海に突き出た岩場一帯の森をタチガンムイと呼んでいる。その南側の海岸には節田立神がある。この岩山は人骨が散乱し、畏れられる場所とされる。

1980年代に集落の人々が公園にする計画できれいに伐採したところ人骨が多く出土したことから断念したが、畏れ、敬う墓地公園としてきれいにしたい場所である。



正月マンカイ(節田マンカイ)

かつては、笠利町全域で旧正月に行われていた伝統行事で、男女が向かい合って並び、三味線(サンシン)と太鼓(チヂン)の伴奏の中、招くような手振りをしながら歌の掛け合いを続ける唄遊びをしていた。

現在は節田集落のみに伝承されているため「節田マンカイ」と呼ばれ親しまれるようになり、平成20(2008)年4月22日に県指定無形民俗文化財となった。



石碑

奄美パーク入口の西側斜面に残る幅の狭い道跡は、昭和3(1928)年に整備された和野に行くための最初の道路といわれ、奄美パーク側にその石碑が残されている。この一帯はマツヌヒラと言われ、神山、カミミチ、神川がある。



節田石の石切り場

節田と和野の境で奄美パーク入り口の海に突き出た先端部分は「マザキ」と呼ばれる。この一帯は石切り場があり地元でマザキ石と呼ばれ、他のシマからは「節田石」と呼ばれている。マザキ石は家の礎、石臼、墓石、学校の記念碑などにも利用されていた。海岸には石を切り出していた跡が今も残る。



神道

節田の神道は現在東西の2か所に残されている。奄美パーク西側斜面には神道川が流れており、橋の欄干にも神道橋と書かれている。もう一つは節田生活館北側から節田保育所に行くところに残る。天孫降臨、阿摩美姑神社、サンゴの積石墓やノロ墓など他のシマジマで消えつつある神々が宿るシマを醸しだしている。